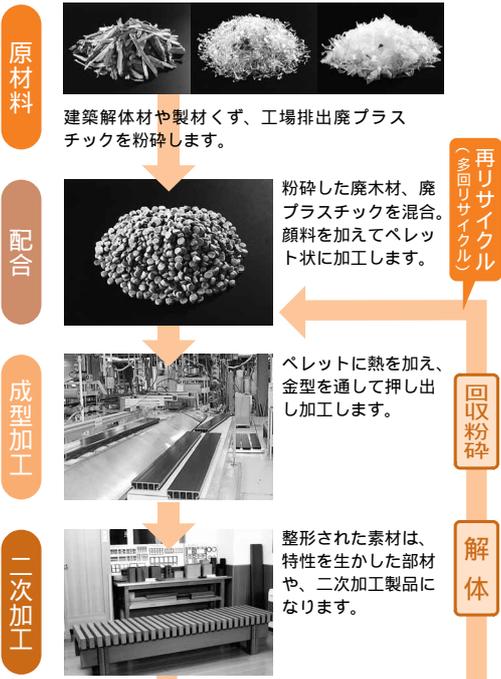


製造過程



選別、洗浄して回収されたペットボトルキャップは、最終的に秋田ウッド株式会社へ運ばれます。

秋田ウッドは、解体した木材や木製品の製造業から排出される廃木材と、市内誘致企業から排出される廃プラスチックを原料に再生木材を製造しています。

環境への関心の高まりを期待
再生木材製造
秋田ウッド(株)

キャップも原材料としてリサイクルされ、ランタナーやベンチなどに生まれ変わります。工場内の製造過程を見せてもらい、武田正直常務からお話を聞きました。



きれいな環境を守ることはみんなが協力する心を持つこと

小さなペットボトルキャップも「ちりも積もれば山となる」のごとく、大事な資源になり、環境にやさしい製品に生まれ変わりました。

取材を重ねていくなかで、このリサイクル運動に携わる方々の、それぞれの目的に向かって取り組む強い気持ちが伝わってきました。

それは、子供たちが徐々に物の大切さや再利用について考え始めていること。施設では、積極的に作業に参加するかたが増えてきたこと。周りで支えるかたの、環境に対する意識が高まっていることからです。また、この運動から、地域のつながりが深まっていったと痛切に感じました。

私たちみんながリサイクルに協力する心を持ち、子供たちにきれいな環境を残していくためにも、私はこれから積極的にこの運動に取り組んでいきたいと思っています。

そして、私たちにも選別作業の手助けができます。それは、家庭で集めるとき

シールをはがして出す
汚れていたら洗っておく

皆さんで取り組みませんか。

最後に一言。『ちょっと待て、捨てるにはもったいない、まだ役に立つ』。

学校にランタナーで還元

ペットボトルキャップも新材の原料として使用できることが分かり、ごみの減量化にもなるため、リサイクルして製品にしています。

キャップは他の廃プラスチックに混ぜて月に500kgを使用しています。割合はわずかに1%に過ぎませんが、P(Pポリプロピレン)の中でも硬いキャップを混ぜることに

より、製品の強度が増すんですよ。将来は割合を3%まで上げたいのですが、キャップがまだまだ足りません。

各学校にはリサイクル運動をがんばったお礼として、集めたキャップの量に応じて、ランタナーを還元しています。最近に関心が高くなってきたのか、各学校の見学が多くなりました。子供たちはキャップを粉碎、混入して製品化されるのを見て、驚きの声を上げていますよ。帰ってからまた一生懸命集め始めるらしいです。

これを機会に廃棄物の再利用に対する意識が高まっていくといいですね。

リサイクルへの理解を深めて

今後は、地域ぐるみで環境に対する取り組みが行われていくでしょう。私たちも、ペットボトルリサイクル事業を通して



粉碎されたペットボトルキャップ

じて、環境保全を進めるために貢献したいという思いで取り組んでいます。

学校での回収運動をきっかけに、皆さんも大分関心を持つようになってきましたし、リサイクルへの理解が深まってほしいですね。